未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見	
◆危機管理分野	
・勉強会、マイ防災マップ作りなどは現在の消防団の機能を担い得る様々な対象者が考えられる．例えば女性や子供が担える機能など，役割を細分して地域で分担して消防団の機能を補完しあうという考え方もある。また，評価の際，誰に対してどういうプログラムを提供し、何をできるようになったのかを言及できるのではないか。	・避難訓練などのフィールドワークは、訓練をすることで防災意識が高まるので、そのような観点も今後検討していくべきではないか。 ・災害が頻発していないようなところでこそ災害意識が高まる事が大切であるため、そういうところでの防災意識の向上の取り組みも進捗点検にいれていただきたい。 ・水害協における関係自治体との連携内容については、専門知識の提供、普及啓発等の具体策を記載していただきたい。 ・自治体との連携においては、実効性のあるものにするために努力が必要で、評価にあたって、改善点を明確化したり、自治体に任せるものの明確化など、メリハリを付けていくようなことも大事である。 ・流域全体の総数で評価しているものについては、河川ごとの取り組み状況が把握できるようにお願いしたい。
◆治水	
・天ヶ瀬ダムの堆砂について、計画堆砂量などの情報も入れていただくとわかりやすい。 ・自治体で進めていることも必要に応じて、参考的に記載すると全体の状況がわかりやすいこともある。	・高規格堤防に関して、区間設定の考え方を可能な形で示せないか。

未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆人と川とのつながり	
	・河川レンジャーは人数だけでなく、メンバーの更新など構成の多様化も評価に値する。 ・河川管理者が発信した情報が、どう受信され、どう利用されたかということを把握することも重要である。 ・人と川とのつながりが、環境、治水、利用に関してどのような貢献があったのかを見るために、実施したイベントを主要テーマ毎に類型分けし、イベントの内訳が見えるようなまとめ方をすることで、各指標を連携して評価する上で役立つのではないか。
◆河川環境	
・河川レンジャーの活動として、外来種駆除を実施しているところもあるので、事例として示して欲しい。市民参加の実績（駆除状況）を参考資料にでも示してもらえると、活動の力にもなる。 ・淀川の干潟・ヨシ原の現状が見えない。どのようなところにあって、どのようなところで再生をするなどの全体像があるのが前提。 ・イタセンパラが生息できる環境を整備していくことを目指しているのであれば、イタセンパラが戻ったワンドは何が良かったのか、生息環境がどう回復したのかを評価し、次の取組に活かす方法を検討して欲しい。 ・イタセンパラは淀川の生物多様性の象徴種であり、野生復帰に向けたプランの中で現状の評価と取組の目指すべき方向は示している。８年ぶりに成魚まで成長した環境というのは淀川本来の環境が一部の地域に再生できたと思っており、今後に明るい兆しが見えてきた。 ・瀬田川洗堰操作については、琵琶湖環境への影響緩和の観点のみから評価されているが、産卵と洪水期前の水位低下が重なると、放流量の増量や下流高水位継続の長期化につながる。下流への影響も考えて柔軟な対応も必要ではないか。	・T-Pで南湖ではS54年度以降減少傾向との評価や、CODの南湖での評価について、評価の記述内容について確認していただきたい。 ・保全利用委員会の中で、いかに川らしい自然環境の保全・再生に向けた審議がなされたかを評価してはどうか。 ・アユモドキの生息環境の評価は、既往の分析も踏まえた評価をしていくべき。また、24年度に事業として特に実施していなかった場合でも、環境のことについては、過年度の事業でどうだったかということよりも、過去から積み重ねてきた対策の効果が現状どうであるかという視点で評価する必要がある。 ・H25年度分の点検では、台風１８号前後の状況を比較することにより、H24年度に実施した取組に対する評価が可能となる。

未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆利水	
◆利用	
◆維持管理	
◆全体	
	・進捗のないものについては、進捗を図るための助言をする必要がある。 ・進捗点検結果は、広く一般に広報する工夫をしていただきたい。

未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見	
◆危機管理分野	
・災害時に早く要援護者を救出、避難させるためにも、要援護者への対応について、自治体との密な連携、事前検討をお願いしたい。 ・作成したマイ防災マップを要援護者である障害者や一人暮らしのお年寄りなどにどのように伝達、周知していくかその方法や体制整備について検討すべき。	・アンケート調査はモニタリングの一種であり、アンケートを実施するだけでなくそのデータを分析していくことが大事。 ・点検・対策を進めるにあたり、治水や環境等の各視点で相乗効果があるものもあり、施策を相互に活かせば、より効果が上がる。
◆治水	
・大きな出水後は、例えばダムの効果など治水について、地元の住民や首長などにきちんと説明すべきであり、また積極的に情報発信していくべきである。	・土砂対策については、モニタリング結果を用いて総合土砂管理計画を立案していくことが必要であり、総合土砂管理委員会で議論すべき事項であると考えている。

未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆人と川とのつながり	
・アンケートでは、アンケートに答えた人自身が気づいている主観的なことしか把握できない。客観的にみて「協議会や河川レンジャー活動によって何か議論し始めた」など地域で何かが起こったときにそれをキャッチするような体制が必要ではないか。 ・河川レンジャーの継続性の大切さと更新による多様性の必要性の両方が生かされるよう仕組みが望ましい。 ・事業の実施に向けた早い段階から市民と一緒に行う川づくりワークショップ等ができれば、事業後の維持管理にも市民自らが積極的に取り組めるのではないか。 ・河川レンジャーは地域に分かれて活動をしているが、上下流を含めた水系の全体像を議論する会合が必要ではないか。 ・小径はハード整備だけではなく、ソフト面をいかに充実させるかという視点も必要。 ・クリーン作戦は住民が川にふれあういい機会でもあるので、さらに参加者を増やすためにも回数を増やしたらいいのではないか。 ・小径の整備においては、初期段階では河川レンジャーが地域の声や価値観を把握し、行政に伝える役割を担うが、河川レンジャーを介さなくてもうまく地域のニーズを行政が把握できる仕組みができることが望ましい。	・漁協の組合員は毎日のように川に出ておられ、川の状況に精通されているので、川と人とのつながりを充実するために、河川レンジャーの活動やイベント時に一般の団体と同じように声をかけるなど連携を強化してはどうか。 ・河川レンジャーについて、各事務所での課題等の情報は、水系内全体で情報共有することは有用ではないか。 ・河川施設を公開するというのはとても大事なこと。工事現場等をなるべく多くの方に見ていただくような仕組みを積極的に作るということは大事だと思う。

未定稿
※第2回委員会までの意見で整理

淀川水系河川整備計画に基づく事業等の進捗点検に関する報告書に対する主な意見

平成25年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
参考資料－1

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆河川環境	
・次世代を担う子供の育成は非常に重要である。現代の子供は川の良さをあまり知らないので、良さを気づかせることが大事。環境教育等の実施回数がH21年度をピークに減ってきているので、もっと取り組みをお願いしたい。 ・淀川における希少種や外来種の状況を把握し、目標や課題を整理し、全体像を示した上で、重点施策として「イタセンパラを野生復帰させる」、「どの外来種を駆除する」という戦略をたてないといけないのではないか。事業だけが先行しているようなイメージを受ける。 ・ナカセコカワニナの調査や移植などの現場作業を子供や市民に体験してもらうことは大事。	・外来種対策は、陸域や府県管理の支川と一体的にやらないと効果的な事業にはなりにくいため、府県との協働体制が出来ているかという観点が必要である。 ・ヨシ帯の再生事例で、資料の写真は株状のヨシに見えるが、株状であるなら、在来魚の産卵場所としては好ましくないと言われていて、景観的にも問題であるので南湖や北湖の一部で問題視されている。面積だけの評価ではなく、質の評価も検討いただきたい。 ・「既設ダムにおける弾力的運用等の検討内容・魚類確認数」の指標において、直接的な評価項目ではないが、例えば河道内工事による変化も土砂の移動という観点では同じ評価をなしえるといえる。 ・砂防施設による土砂移動の制御に関しては、出水で土砂が出てきた場合に必要性が高まったりするため、現状での評価にそれらを加えていく必要がある。
◆利水	
◆利用	
◆維持管理	
◆全体	